

## (3. 共同研究班活動報告)

## 3-3. 同和地区で進む社会実験

中川 理季

私が所属しているのは「これからの都市と居場所と協働を考える会」であるが、本稿では都市と居場所に焦点化し、現在、同和地区で起こっていることを紹介したい。

私が研究対象としている同和地区は、京都市の中でも都市部落／都市型部落と見なされているものである。都市部落とは「都市もしくは都市化地域に存在する部落」（部落解放人権研究所編 2001:750-1）と説明されており、私の調査対象及び本稿で言及するものは都市の中にあつて住居改善の目的で同和対策事業により、地区全体に公営住宅が整備されている。

それらの地区では、収入に応じた家賃を支払うという公営住宅と、住居としてはほぼそれで占められているという地域の状態も関連して、ここ20～30年での人口の大幅な減少が問題とされてきており、現在もそれが解消したとはいえない状況であるが、減少ではなく流入という面で少し動きが生まれてきている。

2011年に、それまで地域の人権・福祉の問題に取り組んできた施設が、一般の市民活動を支援するセンターへと変貌した。その際、指定管理者制度が導入され、施設の管理が自治体から民間団体へと移行したことにより、それまで地区とまったく関係のなかった団体も入ってくるようになった。その地域外から来た団体のセンターを利用した各取り組みとその地域への影響についてこれまで調査してきたので、その内の1団体の実践を紹介したい。

S地区とL地区にあるセンターの管理者であるNPO法人劇研は、文化・芸術の振興を目的とする団体であり、両地区のセンターを基盤に、その目的に沿った文化・芸術の実践／まちづくりをしている。本稿では、L地区での実践に絞って紹介したい。

L地区のセンターは、2015年度から劇研が管理しており、劇研が入ってから地域の盆踊りが約20年ぶりに復活した。住民から地域の祭りを支えてほしいと要望され、どのような祭りを作るかという協議のなかで、住民は住民自身が主にステージに出演し、出し物を披露するような従来の祭りを想定していたが、劇研はそれだけではなく外部にもひらかれた祭りにするため、盆踊りを取り入れることを提案した。盆踊りは、数あるレクリエーションの中でも誰でも参加しやすいものであることが劇研の経験・知識からわかっていたからである。最終的に祭りに盆踊りが組み込まれることになり、盆踊り会場の設営なども劇研が中心になって行ったが、この提案・実施（設営）という行為に劇研の専門性が現れている。盆踊りを取り入れた結果として、盆踊り大会までもたれた数度の練習会で地域の女性たちが盆踊りをやりたい地域内外の若い人たちに踊りを教えながら交流するという状況が生まれたこと、初年度から練習会を含めると老若男女・外国人を含めて参加者が1000名を越えていることなどから盛況をきわめた取り組みだったと考えている。私も練習会・盆踊り大会に参加し、覚えただけの踊りを懸命

に踊ったが、盆踊り大会終了直後の感想が「ロックのフェスタのようだった<sup>1)</sup>」ということからも、やはりそう思う。

元は存在していた地域の伝統的な文化（盆踊り）の復活（・発展）などで、L 地区は新たな魅力をまとったまちへと変貌していくのだろうか。

同和地区に存在するこのセンターのような物理的社会資源は、まちづくりにおいてアドバンテージになるとも指摘されてきた（リム 2012）。実際、このような資源があったからこそ、劇研が入ってくることができたとも考えられる。これまで紹介してきたものは、地域（／都市）において元々存在した施設を利用した、地域で行為する主体の変化／追加、つまり人の変化であった。

一方、別の Y 地区では、物質的な変化も起こりつつある。Y 地区は、京都市の同和地区の中で最大の面積をもち（人口も多い）、京都駅の東すぐに位置し好立地である。ここに、京都市立芸術大学の移転という計画が進められており、着工は 2020 年度に予定されている（『京都新聞（デジタル版）』2017. 1. 23）。大学という施設と学生という人々の参入に、地域の人々は期待と不安を感じているようである<sup>2)</sup>。

L 地区は人の変化であり、Y 地区は人だけではなく物質的变化も含んでいる。Y 地区には大学という新しい資本が入ってくる。同じ「文化・芸術」という枠組みであっても、パターンの違う実践／まちづくりになることから、住民の主体性に着目して、両者の相違を見ていきたいと考えている。既に始まっている L 地区の実践は、劇研によると基本的に住民の意見を中心に進められている。Y 地区は、どうなるだろうか。

「これからの都市と居場所と協働を考える会」は、都市で希薄化したコミュニティを問題化し、新たに人々の交流を作り直す試みに焦点を当てているが、その中にあって私は、コミュニティと外部の接触に焦点を当て、それが内部のコミュニティに与える影響についても考えている。

#### 【参考文献】

部落解放・人権研究所編, 2001, 『部落問題・人権事典』解放出版社。

リムボン, 2012, 『歴史都市・京都の超再生——町家が蠢く、環境・人権・平和のための都市政策』日本評論社。

1) 2017年7月30日に行われたL地区での盆踊り大会でのフィールドノートより。

2) ハートネットTV『この町が好きだから—京都・崇仁（すうじん）地区—』2017. 5. 10 放送より。